



祇園祭

勇壮に街を 練り歩く

夏の名物、祇園祭。『祭の華』は「神輿連合渡御」——今年も7日（初日）、上町・本町・東町の男神輿、女神輿6基が勢揃いし、笛太鼓のはやし連を先導に、災天下、水をかぶりながら「ラッセ、ラッセ」のかけ声に合わせて勇壮にもみ合い街を練り歩き、沿道のみなさんもすっかり祭り気分が酔いしれました。

3地区 連合神輿

これは驚いた

ユリの花 127輪

咲きに咲きました、2本合わせて127輪（75、52）。これは木戸台の加瀬巨保さんの庭に咲き誇った山ユリの花。このユリ、加瀬さんが15年前に裏山から採取したもので、茎の丈はこれまた超ノッポで2m30cmもあり、甘い香りをあたり一面に漂わせていました。（7/27）



浜大漁だねエ～

海の集い子ども大会

ここは屋形海岸、今、地引網のクライマックス。150人の子ども達、親達が、引く手にかを込めて、「ヨイショ、ヨイショ」、アジが、サバが、タチウオが、銀の鱗をなびかせ

て、泳ぎ飛びはねる。太漁にわく歓声が、九十九里浜に——このほかにスイカ割りや宝さがしも行われ、夏の海を満喫しました。（8/4）



私のひとこと



先日、上堺小学校で開催された山武郡青年球技大会で、我が横芝青年団は、団員の協力で総合優勝をすることができました。優勝の瞬間に学生時代の恩師の口癖で「人」の文字を思い浮かべてこらん。漢字の「人」文字は、斜めに延びた文字が互いに寄り合って、一つの文字が成り立っている。その下に「生」きるといふ文字を付け加えて「人生」、つまり、人は助け合い、協力しなければ生きてはいけないものだよ——

この時の言葉を思い浮かべながら、学生時代は同じ年齢の人達が遊ぶだけであるのに対して、青年団は、ある一つの目的に向かって、先輩、後輩との年齢の違う人達が、互いに協力し合って、目的を成し遂げ

協力をもって

町青年団長 実川隆宣（立会）

た時の満足感、何によりも増して得がたいもので、この中で、社会のルールを学べるのです。今、数多くの集まりがありますが、このような集団は他には類を見ません。これらを成功させるには、数多くの団員の参加と、何ごとにもチャレンジして団結を図ることが、これからの青年団活動には不可欠なものだと思っています。

これらのことを取り組んで、誰にでも参加できる、活発な青年団をめざして行きたいと思えます。これからの青年団の行事として、「町民文化祭参加」老人ホーム慰問、美化運動、スポーツ、レクリエーション、他町村青年団交歓会、移動学級、などを予定しています。

